



▲ JICA九州から派遣された3人の講師

甲佐中生徒が国際理解を深める JICA 国際協力出前講座が開催

2月10日（金）甲佐中学校で JICA 国際協力出前講座が開催されました。甲佐町国際交流協会（蔵田勇治会長）が子どもたちに外国に興味を持ってもらうことを目的に実施。JICA九州から青年海外協力隊などの経験がある3人の講師を招き、甲佐中1年生の約90人が海外の体験談や仕事内容などを学び、国際理解を深めました。



▲県広報コンクール広報紙町村部で受賞した各町村の広報紙担当者

「広報こうさ」が県3位入選 第66回県広報コンクール

1月27日（金）第66回熊本県広報コンクールの審査が熊本日日新聞本社で行われ、「広報こうさ」が広報紙部門・町村部で3位となる佳作を受賞しました。昨年に続く受賞は、活発な地域活動を推進する甲佐町の皆さんや応援いただいた読者の皆さんのおかげです。これからも甲佐のまちづくりに携わる全ての人と共に、つくる広報紙を目指して、精進を重ねていきます。



▲全国大会に出場した福田誠志朗選手

本町の選手が全国大会に出場 全日本社会人バスケットボール選手権大会

2月11日（土）～2月13日（月）福井県で開催された第5回全日本社会人バスケットボール選手権大会にエネステージ熊本のメンバーとして福田誠志朗選手（麻生原区）が出場しました。福田選手は「来年も全国大会への切符を勝ち取るためにチームとしても個人としてもレベルアップできるよう練習に励みます」と意気込みました。



▲宮島県道路都市局長へ要望書を手渡す奥名会長（右）

路線整備で地域活性化を 小川御船間道路整備促進期成会が県に要望

1月30日（月）県庁で、小川御船間道路整備促進期成会（奥名克美会長）が要望活動を行いました。同会は、甲佐町・宇城市・御船町の沿線3自治体で構成。宇城市から御船町をつなぐ同区間は、通勤通学や物流において重要な路線ながら未整備区間も多いため、同期成会は早急な整備を要望。奥名会長から宮島哲哉県道路都市局長に要望書が手渡されました。



▲元気に声を出しながら空手の蹴りを実践する児童たち

空手を通して心身を鍛錬 町内小中学校で体験学習「空手道」を開催

3月2日（木）白旗小学校で体験学習「空手道」が開催され、児童14人が空手に挑戦しました。同教室は空手の体験を通して、所作や礼法を学び、相手を尊重する心を育てることを目的とし、町内の小中学校を対象に町教育委員会が主催。県実践空手道連盟会長の松岡勇治さんと日本スポーツ協会の霍本仁史さんを講師に迎え、児童たちに空手の基本動作などを伝えました。



▲加藤神社の石や崖から過去の甲佐町を推測する講師と参加者たち

甲佐高生が昔の甲佐を知る なぞとき・こうさてんワークショップ

2月26日（日）甲佐高校・あゆみ学舎で、地域を題材に謎解きを考えるワークショップが開催されました。地域おこし協力隊の面田太陽さん（大町区）と甲佐高校魅力化コーディネーターの越名智美さんが協力して企画。東京大学大学院の若手研究者3人を講師に招き、甲佐高生が町内各地の地質を調査し、過去の甲佐町がどのような場所であったのか推測しました。



▲本町の災害復興住宅を見学する芝浦工大学生たち

学生が本町の建築物を見て学ぶ 大学生たちが「くまもとアートポリス」の施設見学

3月6日（月）芝浦工業大学建築学部建築学科の岡野道子准教授と学生19人が「くまもとアートポリス」事業で整備された甲佐町の災害公営住宅や府領公民館、建築中のエバーフィールド木材加工場施工現場（府領区）を視察しました。甲佐町住まいの復興拠点施設整備の設計に携わった岡野准教授が企画し、自らの経験を基に建物の構造などを研修しました。



▲永瀬校長から卒業証書を受け取る卒業生たち

思い出と志を胸に学び舎を旅立つ 甲佐中学校卒業証書授与式

3月4日（土）甲佐中学校（永瀬善久校長）で令和4年度卒業証書授与式が行われ、卒業生86人が恩師や仲間との別れを惜しみました。感染症対策のため、在校生の参加は見送られるなど、規模を縮小して開催。卒業生を代表して井芹あかりさん（山出区）が「甲佐中で学んだこと、皆と共に過ごしたことを思い出し、自信をもって歩いていきます」と決意を述べました。